



愛隣幼稚園

園だより

.....21. 2月

できれば笑顔で

この園だよりの巻頭言は年に2回お休みをいただきます。夏休みの8月と年始の1月がお休みです。その休みの間にまた「緊急事態宣言」が発出されることになり、冬休み明けの幼稚園は様々な活動に、再び制限を設ける部分が大きくなってしまいました。本当にうんざりしてしましますが、途方に暮れている暇はありません。3月までの園生活は残り僅かです。どの子にも今年度を満足して歩み切ってもらわなければならない、そんな思いで私たちもうラストスパートです。

さて、年末には「赤ちゃんは可愛くない！」という、保育者にあるまじき発言と共に園だよりをお届けしました。その“可愛くない赤ちゃん”の後日談です。ある時は“ビリケンさん”、はたまたある時は“つつつのおはげちゃん”とその名を代えながら彼女も自身も変化しています。夜の睡眠時間が長くなり、昼間もひとりで遊びながら眠ることもでてきたようで、お母さんは少し楽になりました。さらに大きな変化は、人を見て反応し笑うようになったこと！これはすごい！母だけでなく父も、そしてこれを見てしまった者は誰もがメロメロになってしまうほどの絶大な威力をもった smile。もう“可愛い”以外の何者でもありません。特に母にとっては、泣いて、八つ当たりしながらの数ヶ月の辛い日々をみんな忘れてしまうほどの smile な訳です。赤ちゃんの満面の笑みに満面の笑みで周囲の人々が返します。するとまた笑顔のお返し。泣きのループが笑顔のループへ、実に180度の転換です。泣くことで空腹や不快を伝え、生きることによって一生懸命だった小さな人が、不安や不快を取り除き、安心と心地よさをくれる人をはっきりと認識することで、笑みが生まれる。いや、もしかすると心地よさと共に嬉しい気持ちになる笑顔を何度ももらってきたので、それを真似たのかも知れない。卵が先か鶏が先か・・・やはり最初に笑いかけていたのは親のほうに違いありません。もちろん子育てはひとそれぞれ。親も違えば子も違いますから、みんな同じではありません。でも初めての子育てを観察しながら思うことは、「子どもの傍にいる大人は笑っていたほうがいい」ということ。泣きたいこと、不機嫌になること、不安になること、大人だっていろいろあるので笑ってばかりもいられない。それは百も承知なのですが、やはり、<子どもの傍にいる大人はできれば笑っていたほうがいい>何故って、それで子どもは安心するからです。不安な時に大丈夫って思えたり、愛され守られることを実感できること、それが子どもの成長には欠くことのできない心の栄養です。私たちは大人だから、少し頑張ることも必要です。ちょっとへこたれていても、ぐっと踏ん張って子育ては笑顔でいきましょう。(わかっています、そんなに簡単でないことは。)もう赤ちゃんではなくなった子どもたちだって、大人が笑顔ならきっと笑顔になります。それがへこたれて本当は泣きたい大人を笑顔にしてくれるはずです。さてそうは言っても、子どもと親のコミュニケーションは笑顔だけではありません。ママ達に子どもとのコミュニケーションの方法について聞いたところ、このような答えが返ってきたそうです。[手をつなぐ・抱きしめる・くすぐる・膝に乗せる・ナイショ話・寝る時のトントン・髪を結う・身体を洗う・キスをする・着替えを手伝う・見つめ合う・笑いかける・名前を呼ぶ・歌を歌ってあげる・一緒に踊る etc.] こんなに多種多様なコミュニケーションの方法があるのです。そしてどれもが子どもの心の成長にいい栄養になりそうです。笑顔になれない時にも、子どもに安心を届けられそうです。子育てはひとそれぞれ。自分にフィットした方法で子どもに安心を届けることができれば、それも“笑顔”でいることと同じです。